

# 地域振興 第0号

The Journal of Local Developing Vol.0

2015

東日本国際大学地域振興学会

East Japan International University Society of Local Developing

# 地域振興 第0号 2015年

The Journal of Local Developing Vol.0, 2015

## 目次

〈巻頭言〉	緑川浩司	3
〈設立趣旨〉		
①地域振興戦略研究所 設立趣旨	吉村作治	5
②地域振興学会 設立趣旨	吉村作治	5
〈地域振興戦略研究所の組織と研究員の略歴〉		
①地域振興戦略研究所の組織		7
②研究員の略歴		8
〈地域振興戦略研究所規定〉		33
〈地域振興学会会則〉		35
〈紀要『地域振興』投稿規定〉		37
〈現在までに行われた研究会等の活動〉		
①キックオフ研究会		39
②第2回研究会 学外研究者集会		39
③2015年度第1回研究会		39
〈編集後記〉	吉村作治	41

## 巻頭言

此度、学校法人昌平聳東日本国際大学地域振興戦略研究所内に地域振興学会が設立されたことは大変喜ばしいことです。同研究所は福島県いわき市およびその周辺の町村の地域活性化のために、今、私たちは何をすべきかを調査・研究するものですが、その成果をこの学会で発表し、紀要に著することで、研究所の活動がより学術的になるものと信じております。

昨今、「地方消滅」などという極端な論もありますが、少子高齢化、地方人口の大都市への移住など、日本国内には大きな課題があります。一方、大都市の若年層の中にも地方回帰という現象も起きつつあります。しかし、地方移住にも問題はあります。その第一は仕事です。しかるべき賃金を付与される職域が限られていることです。そして住宅問題、地元の人との折り合いなど、様々な移住阻害の要因はあります。

地方が生き延びるといふ小さな目標でなく、栄えるためにはいかなる方策があるかをいわき市およびその周辺の町村の人々と真剣に考えようというのが、本研究所ならびに本学会の設立意義です。そのために研究員一同、調査研究に励み学術的な成果を出し、官と民との連携を図っていきたいと思います。

なお、本学会は一般にも門戸を開いております。どうぞふるってご参加ください。

緑川 浩司  
地域振興学会 会長

## 設立趣旨

### ①地域振興戦略研究所 設立趣旨

今、日本はアベノミクスによって、再生・復活が起きる可能性が出ているとは言うものの、地方にはその風は吹いていません。日本の祭りプロジェクトで一年に10余の地方都市を巡って10年が経ちますが、この10年間その傾向はあまり変わっていません。

まず、人口流出、産業の力低下、中心街のシャッター通り化、一時急激に増えた大企業の工場や商業施設の閉鎖や縮小化、農業・漁業・林業などの一次産業の空洞化、大学など高等教育を受けるための若年層の大都市への流出など、地方疲弊化のオンパレードです。

一方では、政府をはじめとする人々が、地方分権、地方主権をスローガンにしています。しかし、その具体的政策は未だ見えてきていません。道州制もその良し悪しどころか、実行の方法すら見えてこないのが実情です。この事態に地方は困惑しており、不安が漂っています。このままでいいわけはありません。

というのも、このままじっと政府の出してくるプランを待ち続けていては、地方は疲弊どころか崩壊してしまうのです。

そこで、本学は地方都市である福島県いわき市にある学校法人として、その立場を生かし、全国の同じように苦しんでいる地方都市と情報や意見を交換したり、人材の交流を行ったり、互助システムの共同開発などを行うための戦略研究所を設立するに至ったのです。

### ②地域振興学会 設立趣旨

上記、地域振興戦略研究所の研究調査活動を世に広めるために研究所内に地域振興学会を設立しました。本学会は当面、本研究所の研究員の研究調査活動の報告や研究論文、研究ノートを主に発表いたしますが、号を重ねるにしたがって学内外からの寄稿や投稿を受け入れる所存です。

吉村 作治  
地域振興戦略研究所長

## 地域振興戦略研究所の組織と研究員の略歴

### ①地域振興戦略研究所の組織

役職	氏名	所属等
会長	緑川浩司	学校法人昌平覺 理事長
副会長	田久昌次郎	いわき短期大学 学長
所長	吉村作治	東日本国際大学 学長
副所長	福迫昌之	東日本国際大学 副学長・経済情報学部長・教授
学内研究員	宇佐美登	東日本国際大学 地域振興戦略研究所客員教授
	上遠野和村	東日本国際大学嘱託教授
	今野久寿	東日本国際大学福祉環境学部 教授
	本田創史	東日本国際大学福祉環境学部 教授
	三重野徹	東日本国際大学経済情報学部 教授
	水田健	東日本国際大学経済情報学部 教授
	宮本文雄	東日本国際大学福祉環境学部 教授
事務局	浅井揚三	東日本国際大学 総合企画室長
	松本優梨	東日本国際大学 国際部長
	武藤明美	東日本国際大学 東京事務所長
	緑川敏和	東日本国際大学 総合企画室係長
学外研究員	朝田健治	映像制作会社(有)ぱとす代表取締役
	岩出まゆみ	株式会社アケト代表取締役社長 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師
	上幸雄	NPO法人日本トイレ研究所理事、NPO法人山のECHO代表理事
	遠藤乙彦	株式会社グローバルビジネス戦略総合研究所代表取締役社長兼所長
	小田島章	株式会社ムーブハウス代表取締役
	小野隆彦	早稲田大学維持員・客員教授、東京農工大学客員教授、オスカーテクノロジー株式会社代表取締役社長
	柏木裕之	早稲田大学総合研究機構エジプト学研究所招聘研究員、東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授、東日本国際大学地域振興戦略研究所研究員
	後藤久	サイバー大学客員教授、日本女子大学名誉教授・評議員
	近藤二郎	早稲田大学文学学術院 教授
	齋藤次男	齋藤映像工学 総合プロデューサー
	田部康喜	一般社団法人麻布調査研究機構 代表理事
	堤幹夫	株式会社フォルテイン代表、NPO法人HPA理事長
	中川武	博物館明治村 館長、早稲田大学名誉教授
	苦田秀雄	NPO法人日本の祭りネットワーク副理事長、日本の祭り研究所所長
	矢澤健	早稲田大学総合研究機構エジプト学研究所招聘研究員、東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師、東日本国際大学地域振興戦略研究所研究員
山下弘訓	早稲田大学総合研究機構エジプト学研究所招聘研究員、東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師、東日本国際大学地域振興戦略研究所研究員	

## ②研究員の略歴

### 《所長》

#### 1. 氏名

吉村 作治 (YOSHIMURA Sakuji)

#### 2. 学歴

1964年 早稲田大学第一文学部入学

1967年 エジプト、カイロ大学考古学研究所留学

1971年 早稲田大学第一文学部卒業

#### 3. 学位

博士 (工学)

#### 4. 職歴

1987年 早稲田大学人間科学部助教授

1996年 早稲田大学人間科学部教授

2004年 早稲田大学国際教養学部教授

2007年 サイバー大学初代学長・サイバー大学世界遺産学部教授就任

2014年 学校法人昌平畿東日本国際大学副学長・教授

2015年 学校法人昌平畿東日本国際大学学長

#### 5. 現職

学校法人昌平畿東日本国際大学学長

#### 6. 専門

比較文明論、エジプト考古学

#### 7. 主な業績

1970年 東洋で初めてエジプトでの発掘権を取得、以後、半世紀にわたり数々の発見をする

2009年 『古代エジプト・クフ王「第1の船」の復原に関する研究—現行復原の検証と新復原案の提示 博士学位請求論文』汐文社

2010年 エジプト・アラブ共和国文化省エジプト考古最高評議会よりゴールド・メダル賞を授与される

2010年 早稲田大学名誉教授称号、授与される。

2011年 早稲田大学光輝賛助員名称授与。

他、論文・著書多数

## 《副所長》

## 1. 氏名

福迫 昌之 (FUKUSAKU Masayuki)

## 2. 学歴

1991年 慶應義塾大学商学部卒業 (商学士)

1991年 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程入学

1993年 慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了 (修士 (社会学))

2000年 成蹊大学大学院文学研究科社会文化論専攻博士後期課程入学

2004年 成蹊大学大学院文学研究科社会文化論専攻博士後期課程満期退学

## 3. 学位

修士 (社会学)

## 4. 職歴

1996年 いわき短期大学専任講師 (兼) 東日本国際大学非常勤講師

1997年 東日本国際大学経済学部専任講師 (兼) 地域経済研究所研究員

2003年 東日本国際大学経済学部助教授 (兼) 地域経済研究所研究員

2007年 東日本国際大学経済学部教授 (兼) 地域経済・福祉研究所長

2008年 東日本国際大学経済情報学部教授 (兼) 地域経済・福祉研究所長 (現在に至る)

2012年 東日本国際大学経済情報学部長 (兼務) (現在に至る)

2015年 東日本国際大学副学長 (兼務) (現在に至る)

## 5. 現職

東日本国際大学副学長・経済情報学部長・教授

## 6. 専門

社会学、コミュニケーション論、まちづくり

## 7. 主な業績

2008年 「いわき市における観光まちづくりへの胎動～「いわき観光まちづくりビューロー」設立に寄せて～」『みらい vol.9』いわき未来づくりセンター。(論文)

2011年 「大学生の力を活用した集落活性化事業～埴町矢塚区のケーススタディ～」『地域』通巻5号、東日本国際大学地域経済福祉研究所

2011年 『新・いわき市総合計画 次期基本計画策定にかかる課題検討専門委員会 調査研究報告書』(共著) いわき未来づくりセンター

2013年 「大型商業施設と地域復興」『地域』通巻7号、東日本国際大学地域経済・福祉研究所

2014年 「双葉地域に「希望のまち」を―「新しい東北」を福島から」『ほくとう総研機関紙 NETT No.86』北海道東北地域経済総合研究所 (論文)

## 《学内研究員》

## 1. 氏名

宇佐美 登 (USAMI Noboru)

## 2. 学歴

1989年 早稲田大学理工学部機械工学科卒業

## 3. 学位

学士(工学)

## 4. 職歴

1993年 衆議院議員初当選(新党さきがけ、旧東京2区)

2003年 衆議院議員2期目当選(民主党、東京4区)、内閣委員会筆頭理事

2004年 党経済団体局長

2007年 社団法人日本WHO協会会長(～09年)

2011年 青山学院大学客員研究員(～12年3月)

2014年 東日本国際大学・地域振興戦略研究所客員教授(～現在)

## 5. 現職

東日本国際大学 地域振興戦略研究所客員教授

## 6. 専門

国際環境政策、医療工学、医療政策、立法学、まちづくり政策

## 7. 主な業績

1993年 携帯電話の自由化、格安航空券の合法化などを実現。これは、生活に革命的变化をもたらした。PL法や環境基本法など次々に法制化。党行革本部事務局長として、特殊法人改革、情報公開法の制定に邁進。

1995年 ムルロア環礁における仏核実験で、世界の国会議員7人と実験水域に突入し、仏軍により拘束された。世界中から行動する日本の政治家として報道・認知された。

1995年 軟禁中のミャンマーの民主化運動の指導者アウンサン・スーチー女史と日本の国会議員で初めて会見。スーチー女史のメッセージを世界に届けた。

1996年 チベット亡命政府のダライ・ラマ14世に与党議員としてはじめて会見。以後定期的に議論を続けており、2014年8度目の会談。

2003年 消費者保護基本法、犯罪被害者等基本法、障害者基本法、食育基本法の成立に尽力。



## 《学内研究員》

## 1. 氏名

上遠野 和村 (KADOONO Kazumura)

## 2. 学歴

1972年 京都大学法学部 卒業

## 3. 学位

法学学士

## 4. 職歴

1972年 福島県採用 (職種 行政職)

1998年 総務部文書学事課長 (私学振興・条例制定・法務・情報公開条例担当)、企画調整部地域振興課長 (エネルギー・原発・中山間地域振興担当)

2002年 生活環境部 部参事 (人権・男女共同参画・青少年担当)、知事直轄知事公室長

2004年 会津地方振興局長

2006年 人事委員会事務局長

2008年 福島県退職

2009年 福島大学 大学連携センター 教授 (～平成24年3月まで)

2012年 東日本国際大学特任教授

2015年 東日本国際大学嘱託教授

## 5. 現職

東日本国際大学嘱託教授

## 6. 専門

行政法、地方行政、地方財政

## 7. 主な業績

1982年～1983年 図説 福島県の商工業、産業拠点施設整備構想

1987年 福島県国際化推進指針、福島県長期総合計画、商工労働行政基本計画、テレビ視聴率分析調査、自然環境保全地域計画、中山間地域振興計画)

1999年 福島県情報公開条例・全部改正

2001年 福島県男女共同参画条例制定

## 《学内研究員》

## 1. 氏名

今野 久寿 (KONNO Hisashi)

## 2. 学歴

1973年 日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業

## 3. 学位

学士 (社会福祉学)

## 4. 職歴

1974年 いわき市役所入職 (平成23年3月31日定年退職)

1987年 いわき市立磐城共立高等看護学院講師 (社会福祉論) (平成6年3月まで)

2006年 いわき市社会福祉協議会勿来地区協議会常任幹事 (平成20年3月まで)

2006年 いわき市勿来居宅支援事業所管理者 (平成20年3月まで)

2008年 いわき市社会福祉協議会小名浜地区協議会常任幹事 (平成23年3月まで)

2008年 いわき市小名浜地区居宅支援事業所管理者 (平成22年3月まで)

2011年 東日本国際大学福祉環境学部地域経済・福祉研究所副所長 准教授

2013年 いわき市社会福祉協議会いわき市地域福祉推進支援事業地域福祉コーディネーター

2014年 東日本国際大学福祉環境学部地域経済・福祉研究所副所長 教授

## 5. 現職

東日本国際大学福祉環境学部教授

## 6. 専門

福祉行財政、公的扶助、行旅死亡人

## 7. 主な業績

2012年 「高齢者施設と災害対策—より良き道をもとめて」共著、『東日本国際大学福祉環境学部研究紀要 第8巻 第1号』(論文)

2015年 「福島県内市町村における障害者雇用の現状と法定雇用率引き上げへの対応」、『東日本国際大学福祉環境学部研究紀要 第11巻 第1号』(調査報告)

## 《学内研究員》

### 1. 氏名

本多 創史 (HONDA Soshi)

### 2. 学歴

2006年 一橋大学大学院言語社会研究科博士後期課程修了

### 3. 学位

博士・学術

### 4. 職歴

東京大学先端科学技術研究センターバリアフリー部門視覚障害支援員等を経て、現在福祉環境学部教授

### 5. 現職

東日本国際大学福祉環境学部教授

### 6. 専門

生命技術の思想史、優生学と障害者

### 7. 主な業績

2003年 『身体は何を語るのかーライブラリ関連社会科学8』新世社

2006年 『明治期感化救済事業の思想ー留岡幸助の「ぬるやかな」社会・国家』(博士学位請求論文)

2012年 『辺境から始まるー東京・東北論』明石書店

## 《学内研究員》

## 1. 氏名

三重野 徹 (MIENO Toru)

## 2. 学歴

1979年 東京理科大学理学部物理学科卒業

## 3. 学位

学士 (理学)

## 4. 職歴

1979年 東芝情報システム株式会社入社

1980年 日本アイ・ビー・エム株式会社入社、東京工業大学大学院総合理工学研究科企業聴講生修了 (2年間)、IBM 企業内大学院修了

1994年 日本アイ・ビー・エム株式会社プロジェクト・マネージャ課長

1999年 日本アイ・ビー・エム株式会社シニア・プロジェクト・マネージャ次長、日本アイ・ビー・エム株式会社 / IBM ビジネス・コンサルティング・サービス (株) シニア・コンサルタント次長

2009年 株式会社情報システム工学参与

2011年 東日本国際大学経済情報学部教授

2013年 東日本国際大学経済情報学部学科長

## 5. 現職

東日本国際大学経済情報学部教授

## 6. 専門

経営分野・情報分野

## 7. 主な業績

1995年 「やさしい経済情報学の進め」 共著 オーム社

2012年 「グローバル経営資源の最適化」 経営工学会 日本型MOT研究部会 発表

2013年 「グローバル技術戦略の考察」 日本経営工学会 全国大会 発表

2014年 「グローバル企業の価値」 日本経営学会 全国大会 発表

2014年 「グローバル経営におけるイノベーションの組織のあり方に関する考察」 研究紀要 論文

## 《学内研究員》

## 1. 氏名

水田 健 (MIZUTA Ken)

## 2. 学歴

1976年 法政大学経済学部卒業

1976年 法政大学大学院社会科学研究所修士課程入学 (1980年3月修了)

1980年 法政大学大学院社会科学研究所博士課程入学 (1986年3月修了)

## 3. 学位

修士 (法政大学大学院社会科学研究所)

## 4. 職歴

1986年 東北大学大学院経済学研究科研究員 (昭和62年3月まで)

1995年 東日本国際大学専任講師 (平成11年4月助教授)

1999年 東日本国際大学助教授

2002年 東日本国際大学教授

2007年 東日本国際大学経済情報学部長 (平成23年12月まで)

2009年 東日本国際大学副学長 (平成24年3月まで)

## 5. 現職

東日本国際大学経済情報学部教授

## 6. 専門

経済学

## 7. 主な業績

1995年 『経済学における正統と異端』 (昭和堂) 共著

2002年 『重商主義再考』 (日本経済評論社)、共著

2012年 『経済学史』 (ミネルヴァ書房) 共編纂

2014年 「フクシマと日本の進路」 (『政策科学学会年報』4号) (論文)

2015年 「リカードウにおける資本蓄積一人1-1. 自由貿易・農業改良・機械導入をめぐって」 (『マルサス学会年報』24号) (論文)

## 《学内研究員》

## 1. 氏名

宮本 文雄 (MIYAMOTO Fumio)

## 2. 学歴

1977年 東京教育大学大学院教育学研究科博士課程中途退学

## 3. 学位

修士 (教育学)

## 4. 職歴

1977年 筑波大学附属大塚特別支援学校教諭

1988年 筑波大学学校教育部講師

1994年 東京成徳大学応用心理学部福祉心理学科助教授

1997年 東京成徳大学応用心理学部福祉心理学科教授

2009年 福祉心理学会：福祉心理士資格認定委員会委員長

2009年 特別支援学校学校評議委員

2010年 特別養護老人施設の評議委員

## 5. 現職

東日本国際大学福祉環境学部教授

## 6. 専門

福祉心理学、特別支援教育 (知的障害)

## 7. 主な業績

1991年 障害児教育の基礎 (分担執筆) 学苑社

2002年 障害児保育 (分担執筆) 学芸図書株式会社

2002年 福祉心理学 (編著) ブレーン出版、その他

## 《学外研究員》

## 1. 氏名

朝田 健治 (ASADA Kenji)

## 2. 学歴

1972年 千葉大学工学部写真工学科 卒業

## 3. 学位

学士(工学)

## 4. 職歴

1972年 株)日本映像記録センター入社

1987年 株)ユニオンプロジェクトとの専属カメラマン契約

1990年 映像制作会社(有)ぱとす設立、代表取締役役に就任

2007年 サイバー大学・世界遺産学部教授に就任

## 5. 現職

映像制作会社(有)ぱとす代表取締役

## 6. 専門

映像制作 デジタル映像アーカイブ

## 7. 主な業績

## ＜作品歴＞

1983年 「チベット東西南北」日本テレビ・すばらしい世界旅行

1994年 NHKスペシャル「人体パートⅡ脳と心～無意識と創造性」NHK 総合

1995年 「情熱の大地・ブラジル」NHK・BS

1997年 「島に祈りがよみがえった～射爆演習場と神女たち～」NHK 総合

2006年 「吉村作治のエジプト発掘40年」DVD(株)アケト

2013年 伝えたい国際人のDNA 磯村尚徳・国際派ジャーナリストの軌跡 電子書籍

## ＜受賞歴＞

1999年 第14回マルチメディアグランプリ1999 シアター・展示部門 パブリック賞

「結 - 白川郷に残る日本人の絆」

2002年 文部科学省教育映画祭優秀作品賞・「危ない！お母さんの交通安全」

2013年 学習デジタル教材コンクール学情研賞「体験してみよう！世界遺産『小笠原諸島』の不思議」 他

## 《学外研究員》

### 1. 氏名

岩出 まゆみ (IWAIDE Mayumi)

### 2. 学歴

1977年 早稲田大学第一文学部入学

1981年 早稲田大学第一文学部西洋史専修卒業

### 3. 学位

学士 (西洋史)

### 4. 職歴

1981年 株式会社エトワール海渡 (～1985年)

1985年 株式会社システムアート (～1988年)

1989年 早稲田大学古代エジプト調査室嘱託 (～2000年)

1994年 株式会社アケト創業 (～現在)

2000年 早稲田大学エジプト学研究所客員研究員 (～2010年)

2010年 早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員 (～現在)

2014年 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師 (～現在)

### 5. 現職

株式会社アケト代表取締役社長、東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師

### 6. 専門

エジプト考古学、古代エジプト女性史、生活博物誌

### 7. 主な業績

1982年 「ファラオの眠る谷」(NTV出版) 共著

1991年 「考古学は好奇心を満足させる知的ゲーム」『私が聴いた名講義』(一季出版) 共著

1993年 「早稲田大学エジプト学研究活動報告」第1号～13号 (早稲田大学エジプト学会)

1997年 「エジプト美の起源～カイロ博物館入門」(小学館) 共著

1999年 「ウィーン美術史美術館所蔵古代エジプト展図録」(TBS) 共著

2005年 「古代エジプトを知る事典」(東京堂出版) 共著

2006年 「吉村作治の早大エジプト発掘40年展図録」(RKB) 共著

2011年 「古代エジプトの秘宝～世界の博物館を訪ねて」(ポニーキャニオン)

2014年 「ピラミッド時代の人々の生活」、『世界史人別冊ピラミッド5000年興亡の謎』(KKベストセラーズ) 共著



## 《学外研究員》

### 1. 氏名

上 幸雄 (UE Kouo)

### 2. 学歴

1964年 早稲田大学教育学部入学

1972年 早稲田大学教育学部卒業

### 3. 学位

学士 (教育学)

### 4. 職歴

1972年 株式会社パシフィックアーキテック商会

1984年 地域交流センター事務局長

2002年 日本トイレ協会理事

2003年 NPO 法人日本トイレ研究所理事長

### 5. 現職

NPO 法人日本トイレ研究所理事、NPO 法人山の ECHO 代表理事

### 6. 専門

自然環境、トイレ学

### 7. 主な業績

(著書)

1999年 「ウンチとオシッコはどこへ行く」(不空社)

2012年 「生死を分けるトイレの話」(環境新聞社)

2015年 「トイレのチカラ」(近代文藝社)

(表彰)

「日本トイレ協会の活動」に対し「89デザインイヤー記念奨励賞」受賞

阪神淡路大震災でのトイレ支援活動に対し「厚生大臣感謝状」受与

NPO 法人山の ECHO の山岳環境改善活動に対し、「環境大臣賞」受賞

NPO 法人日本トイレ研究所のトイレ・下水道改善活動に対し、国土交通大臣賞受賞

## 《学外研究員》

### 1. 氏名

遠藤 乙彦 (ENDO Otohiko)

### 2. 学歴

1969年 慶應義塾大学経済学部卒業

1971年 英国ケンブリッジ大学経済政治学部卒業

### 3. 学位

修士

### 4. 職歴

1969年 外務省入省（1968年外務公務員採用上級職試験合格）

在英国大使館、在インド大使館、在 EC 日本政府代表部

調査局調査室長、文化交流部文化第二課長、埼玉大学客員教授等歴任

1988年 外務省退職（衆議院議員選挙出馬のため）

1990年 衆議院議員選挙初当選（以降当選6回）

通産政務次官、財務副大臣、建設委員長、文部科学委員長等歴任

2012年 衆議院議員勇退

2013年 株式会社グローバルビジネス戦略総合研究所代表取締役社長兼所長

### 5. 現職

株式会社グローバルビジネス戦略総合研究所代表取締役社長兼所長

### 6. 専門

外交安全保障、経済政策、グローバル人材育成

### 7. 主な業績

著書：「日本破局のシナリオ」（共著）、「明日へ全力」1・2

外務省時代に、ワーキングホリデー制度、JETプログラム、世界スポーツコーチサミットを提案・実現

国会議員時代に、東京電力福島原子力発電所事故調査委員会（国会事故調）、日・ウクライナ原子力事故対処協力協定を提案・実現

## 《学外研究員》

## 1. 氏名

小田島 章 (ODASHIMA Akira)

## 2. 学歴

1981年 早稲田大学理工学部工業経営学科卒業

## 3. 学位

学士 (工学)

## 4. 職歴

1981年 株式会社エドケン入社

1987年 株式会社エドケン東京事業本部副本部長兼海外事業部長

1987年 株式会社ヒューマンランド代表取締役

1988年 株式会社エドケン取締役海外事業部長兼経営戦略室長

2012年 株式会社プロジェクトコンサルティング所長

2015年 株式会社ムーブハウス代表取締役

## 5. 現職

株式会社ムーブハウス代表取締役

## 6. 専門

まちづくり

## 7. 主な業績

1979年 東映 "喧嘩道" 主演

1998年 (社)日本ハウビルダー協会より共同住宅優秀賞受賞

1999年 (社)日本ハウビルダー協会より共同住宅優秀賞受賞

2000年 (社)日本ハウビルダー協会より共同住宅優秀賞受賞

2001年 (社)全国住宅協会連合会優良団地賞

2002年 (社)日本住宅建設産業協会より中高層分譲住宅部門優秀事業賞受賞

2003年 (社)日本住宅建設産業協会より中高層分譲住宅部門優秀事業賞受賞

2004年 (社)全国住宅建設産業協会連合会優秀団地賞受賞

2006年 (社)全国住宅建設産業協会連合会優秀団地賞受賞

## 《学外研究員》

## 1. 氏名

小野 隆彦 (ONO Takahiko)

## 2. 学歴

1974年 慶應義塾大学商学部卒業 (商学士)

## 3. 学位

工学博士 (東北大学)

## 4. 職歴

1991年 株式会社小野測器代表取締役社長 (2001年まで)

1992年 群馬大学客員教授 (1993年まで)

1999年 株式会社サトー社外取締役 (2014年まで)

2002年 早稲田大学客員教授 (現任)

2005年 東京農工大学理事・副学長 (2011年まで)

2011年 東京農工大学客員教授 (現任)

2012年 早稲田大学維持員 (現任)

2013年 オスカーテクノロジー株式会社設立、代表取締役 (現任)

## 5. 現職

早稲田大学維持員・客員教授、東京農工大学客員教授、オスカーテクノロジー株式会社代表取締役社長

## 6. 専門

音響情報学、組織経営学

## 7. 主な業績

1989年 「FFTに基づく信号処理の自動化の研究」(博士学位請求論文)

1992年 群馬大学客員教授として経営科学に関する研究に従事

2002年 早稲田大学客員教授として音響工学に関する研究に従事 (現任)

2005年 国立大学法人東京農工大学理事・副学長として大学経営に従事

2013年 早稲田大学発のベンチャービジネスを創業、経営に当たる

## ＜受賞歴＞

1999年 日本機械学会 機械力学・計測制御部門賞受賞

2002年 日本音響学会 佐藤論文賞受賞

## 《学外研究員》

## 1. 氏名

柏木 裕之 (KASHIWAGI Hiroyuki)

## 2. 学歴

1985年 早稲田大学理工学部建築学科入学

1989年 早稲田大学理工学部建築学科卒業 工学士

1989年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻建築学分野博士前期課程入学

1991年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻建築学分野博士前期課程修了 工学修士

1991年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻建築学分野博士後期課程入学

1994年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻建築学分野博士後期課程単位取得満期退学

## 3. 学位

博士（建築学）（早稲田大学 第4183号）

## 4. 職歴

2000年 武蔵野女子（現 武蔵野）大学短期大学部生活創造デザイン学科専任講師（～2003年）

2007年 サイバー大学世界遺産学部准教授（～2011年）

2011年 サイバー大学世界遺産学部教授（～2013年）

2014年 早稲田大学総合研究機構エジプト学研究所招聘研究員（～現在に至る）

2014年 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授（～現在に至る）

2014年 東日本国際大学地域振興戦略研究所研究員（～現在に至る）

## 5. 現職

早稲田大学総合研究機構エジプト学研究所招聘研究員、東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授、東日本国際大学地域振興戦略研究所研究員

## 6. 専門

古代エジプト建築技術史、歴史的建造物の保存と再生

## 7. 主な業績

2001年 「世界宗教建築事典」（東京堂出版）共著

2002年 「ヴィジュアル版建築入門3 建築の構造」（彰国社）共著

2006年 「古代エジプト、カエムワセト王子の石造建造物に関する建築的研究」（博士学位請求論文）

2007年 「建築大百科事典」（朝倉書店）共著

## 《学外研究員》

## 1. 氏名

後藤 久 (GOTO Hisashi)

## 2. 学歴

1961年 早稲田大学理工学部建築学科卒業

1965~1970年 早稲田大学大学院建設工学専攻建築史専修

## 3. 学位

工学博士

## 4. 職歴

1961~1965年 株式会社東畑建築事務所勤務

1973~2005年 日本女子大学に奉職、同大学教授 (1982年~)

1993~1996年 日本女子大学家政学部長

2006~2008年 早稲田大学理工学術院客員教授

## 5. 現職

サイバー大学客員教授、日本女子大学名誉教授・評議員

## 6. 専門

建築史

## 7. 主な業績

博士学位論文：ローマンインスラに関する研究 1978-3 早稲田大学

著書：都市型住宅の文化史 (日本放送出版協会)、世界の建築に学ぶ・知恵と工夫 (章国社)、西洋住居史—石の文化と木の文化— (彰国社)、住居学入門 (実教出版) 他多数

学術論文：

「ヨーロッパにおける中世町屋の系譜」に関する論文 10編 1971~1985

「マルカタ王宮」に関する研究論文6編 1986~1990

「ウィトルウィウス『建築書』」に関する研究論文3編 1991~1992

「イギリス郊外住宅の空間構成」に関する研究論文2編 1991、1992

「英国のパラディアニズム」に関する研究論文2編 1993

「バーリントン・ハウス」に関する研究論文3編 1994~1995

「マナハウス」に関する研究論文8編 1995~2004

設計作品：

旧上野本牧亭、林家木久扇師匠邸、西武学園文庫幼稚園、他住宅作品多数

## 《学外研究員》

## 1. 氏名

近藤 二郎 (KONDO Jiro)

## 2. 学歴

1971年 早稲田大学第一文学部入学

1975年 早稲田大学第一文学部西洋史学専修卒業

1975年 早稲田大学大学院文学研究科史学（西洋史）専攻修士課程入学

1976年 早稲田大学大学院文学研究科史学（考古学）専攻博士前期課程2年編入

1978年 早稲田大学大学院文学研究科史学（考古学）専攻博士前期課程修了

1978年 早稲田大学大学院文学研究科史学（考古学）専攻博士後期課程入学

1986年 早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学

## 3. 学位

修士

## 4. 職歴

1991年 早稲田大学文学部非常勤講師（～1996.09.15）

1991年 共立女子大学文芸学部非常勤講師（～1999.03.31）

1996年 早稲田大学理工学研究センター客員講師（～1999.03.31）

1999年 早稲田大学文学部助教授（～2004.03.31）

2004年 早稲田大学文学学術院教授（現在に至る）

## 5. 現職

早稲田大学文学学術院教授

## 6. 専門

エジプト学、考古学、文化財学

## 7. 主な業績

2008年 『エジプト考古学』（改訂版）、早稲田大学文学学術院、DNPアートコミュニケーションズ

2010年 『わかってきた星座神話の起原：エジプト・ナイルの星座』誠文堂新光社

2013年 「エジプト、デンデラ神殿の天体図に描かれたバビロニア起源の星座」『技術と交流の考古学』岡内三真編、481-491頁

## 《学外研究員》

## 1. 氏名

齋藤 次男 (SAITO Tsugio)

## 2. 学歴

1957年 東北大学文学部社会学科卒業

## 3. 学位

## 4. 職歴

1957年 松竹株式会社入社

映画「切腹」おはなはん」「男はつらいよ」など、約30作品を担当する。

1973年 松竹株式会社退社

1975年 (株)社会計画研究所設立、代表

2009年 (株)社会計画研究所設立退職

2009年 サイバー大学世界遺産学部客員教授

## 5. 現職

齋藤映像工学総合プロデューサー

## 6. 専門

映像工学

## 7. 主な業績

映画「切腹」おはなはん」「男はつらいよ」など、約30作品のプロデュース

全国でまちづくり合意形成作品70作品を制作

都市計画、地域計画など、調査研究プロジェクト多数を実施

著書

「魅力あるまちづくりのすすめ」

「映像からのまちづくり」

「ひとめでわかるまちづくりの本」

「どこにもないまちをつくる」(ぎょうせい)



## 《学外研究員》

## 1. 氏名

田部 康喜 (TABE Kouki)

## 2. 学歴

1978年 東北大学法学部卒業

## 3. 学位

学士 (法学)

## 4. 職歴

1978年 朝日新聞入社

1992年 朝日新聞企画報道室副室長

2000年 朝日新聞論説委員 (～2001年)

2002年 ソフトバンク株式会社広報室長

2010年 ビューン取締役会長

2012年 一般社団法人麻布調査研究機構代表理事

## 5. 現職

一般社団法人麻布調査研究機構代表理事

## 6. 専門

地域振興論、起業論、広報論、ジャーナリズム論

## 7. 主な業績

“泡”がなくても生きられる 朝日ジャーナル 1991年11月16日号

起業にもつと支援を 朝日新聞社説 2001年4月22日付

ビット・バレー 朝日新聞・コラム「論説委員室から」2000年2月12日付

農協が伝統のマークを捨てる理由 朝日ジャーナル 1991年7月19日号

社会に貢献し利益も得る 朝日新聞社説 2001年3月25日付

## 《学外研究員》

### 1. 氏名

堤 幹夫 (TSUTSUMI Mikio)

### 2. 学歴

1969年 都立日本橋高校卒

### 3. 学位

### 4. 職歴

1980年 -82年 健康づくり財団企画、中京テレビ制作、日本テレビ放映、週1回のテレビ番組「健康の旅北から南から」のスタッフとして参加。タレントでレポーターとして活躍した芥川龍之介の孫（也寸志の長女）、芥川麻実子と共に取材で日本中を駆け巡る。

1986年 ビデオ機器の家庭への普及に伴い、ビデオと小冊子をペアにした、主婦の目線から主婦中心のスタッフで主婦を対象とした会員制隔月刊ビデオ情報誌「フォルテレイン」を企画・制作・出版。12月、株式会社フォルテレインを設立。

1993年 自主企画で「おりがみからくり箱」の制作を開始。おりがみ会館館長や関係者のご好意と全面協力。元文化庁長官を初め、各界著名な方々から推薦を頂き、2巻並びに英語版（各60分）を制作。販売を開始。2007年 サイバー大学の講義コンテンツ制作メンバーにディレクターとして参加。

### 5. 現職

株式会社フォルテレイン代表、NPO法人HPA理事長

### 6. 専門

食品衛生、外食産業に関連する教育・啓蒙映像の企画、演出。制作。

### 7. 主な業績

1982年 大日本印刷のデザイン部門（CDC事業部）と取引を開始、後の大日本印刷の映像関連事業進出へのきっかけの一端を担う

1994年 「おりがみからくり箱」2巻共に、おりがみがテーマの映像で初の文部省選定（成人向け教養・情操）

2006年 書家とのグラフィックアート数点がイスラエル・パレスチナ和平への祈願として大使館員、パレスチナ側関係者に対し、羽田孜元総理来席の元、贈呈される

2012年 NPO法人HPAとして、双日国際交流財団の助成を受けミンダナオ島MVC大学にて学生との交流シンポジウム開催

## 《学外研究員》

## 1. 氏名

中川 武 (NAKAGAWA Takeshi)

## 2. 学歴

1967年 早稲田大学工学部建築学科 卒業

1972年 早稲田大学工学研究科建設工学専攻 博士後期課程 修了

## 3. 学位

工学博士

## 4. 職歴

1971年 早稲田大学工学部 助手

1977年 早稲田大学工学部 専任講師

1979年 早稲田大学工学部 助教授

1984年 早稲田大学工学部 教授

2015年 早稲田大学 名誉教授

## 5. 現職

博物館明治村館長、早稲田大学名誉教授

## 6. 専門

比較建築史、アジア古代建築の保存修復技術の研究

## 7. 主な業績

## ■主な著書

1986年 「木割の研究」(博士学位請求論文)

1987年 建築様式の歴史と表現—いま、日本建築を劇的に—(彰国社)

2002年 日本の家：空間・記憶・言葉 (TOTO 出版)

2012年 文化遺産の保全と復興の哲学—自然との創造的関係の再生—(早稲田大学出版部)

2013年 木碎之注文 (中央公論美術出版)

2014年 コー・ケーとベン・メアレア (中央公論美術出版)

2015年 日本の古建築 美・技術・思想 (青土社)

## ■主な受賞歴

2002年 日本建築学会賞 (業績賞)

2006年 カンボジア王国メダイサハメトレイ王国勲章アンマルン級

2006年 早稲田大学大隈記念学術褒賞 (記念賞)

2007年 ベトナム政府友好勲章

2012年 平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰

## 《学外研究員》

## 1. 氏名

苦田 秀雄 (NIGATA Hideo)

## 2. 学歴

1964年 早稲田大学第一文学部入学

1969年 早稲田大学第一文学部卒業

## 3. 学位

学士

## 4. 職歴

1969年 博報堂入社（平成18年3月定年まで）

2006年 同志社女子大学嘱託講師就任

2007年 サイバー大学客員教授就任

2011年 NPO 法人日本の祭りネットワーク副理事長就任、日本の祭り研究所所長就任（現在に至る）

## 5. 現職

NPO 法人日本の祭りネットワーク副理事長、日本の祭り研究所所長

## 6. 専門

コミュニケーション論、マーケティング戦略、お祭り論

## 7. 主な業績

「にがっちゃんーある広告人のひとりごと」（1996年）

「祭祀における“掛け声”の意味と、それに呼応する“うごき”との関連性についての一考察（吉村作治先生古稀記念論集）」（2013年）

「日本の祭り」読売新聞・年1～2回（カラー2ページ）

「祭りに行こう」NPO 日本の祭りネットワーク機関誌・年4回発行

「祭りに行こう」雑誌大人組・年6回発行

「祭りに行こう」日本建設PR誌・年4回発行

「祭りに行こう」月刊とまと・毎月発行

「日本の祭り紹介」政府観光局WEB世界発信・年4回

## 《学外研究員》

## 1. 氏名

矢澤 健 (YAZAWA Ken)

## 2. 学歴

2003年 早稲田大学第一文学部卒業

2005年 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了

2010年 早稲田大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学

## 3. 学位

修士 (文学)

## 4. 職歴

2007年～2011年 サイバー大学世界遺産学部助手

2010年～ 早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員

2011年～ NPO法人 e-コンテンツ研究所研究員

2012年～2013年 立正大学文学部非常勤講師

2014年～ 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師

2015年～ 東日本国際大学地域振興戦略研究所研究員

## 5. 現職

東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師、東日本国際大学地域振興戦略研究所研究員、早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員、NPO法人 e-コンテンツ研究所研究員

## 6. 専門

エジプト考古学

## 7. 主な業績

早稲田大学古代エジプト調査隊 (隊長: 吉村作治) による調査・研究に参加。アブ・シール南丘陵遺跡、ダハシュール北遺跡の調査に参加し、2008年からはダハシュール北遺跡調査の主任を務める。

世界遺産メンフィス・ネクロポリスを対象とした保存整備計画の研究に従事。地理情報システムを活用した遺跡の現状評価、インターネットやモバイルデバイスを活用した遺跡の情報発信方法を研究。ダハシュール北遺跡の保存整備計画案を提示。

eラーニングを活用した教育コンテンツ制作、およびコンテンツのネット配信システムやアプリの開発・運用に従事。サイバー大学、東日本国際大学のeラーニング授業の作成補助も行った。

## 《学外研究員》

## 1. 氏名

山下 弘訓 (YAMASHITA Hirokuni)

## 2. 学歴

1997年 九州大学文学部考古学専攻卒業  
1999年 早稲田大学文学研究科修士課程考古学専修入学  
2002年 早稲田大学文学研究科修士課程考古学専修修了  
2002年 早稲田大学文学研究科博士後期課程考古学専修入学  
2007年 早稲田大学文学研究科博士後期課程考古学専修単位取得退学

## 3. 学位

修士 (文学)

## 4. 職歴

2007年 サイバー大学世界遺産学部助教  
2010年 サイバー大学客員講師  
2011年 NPO 法人 e- コンテンツ研究所研究員  
2014年 東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師  
2015年 東日本国際大学地域振興戦略研究所研究員

## 5. 現職

東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師、東日本国際大学地域振興戦略研究所研究員、早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員、NPO 法人 e- コンテンツ研究所研究員

## 6. 専門

エジプト考古学

## 7. 主な業績

2009年 「クフ王「第2の太陽の船」調査概報1：モニタリングと温湿度調査」『エジプト学研究』第15号、pp.5-11、共著  
2013年 「古王国時代の造船レリーフについて」『吉村作治先生古稀記念論文集 永遠に生きる～ Eternal Life ～』pp.565-577  
2014年 「介護従事者のための「実務者研修 e ラーニング教材」開発」『平成25年度文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材育成の戦略的推進事業－介護分野における中核的専門人材の量的拡大ならびに質的向上成果報告書』p.68-89

## 地域振興戦略研究所規定

### 第1条 趣旨

東日本国際大学に於ける教育研究のひとつとして、いわき市をはじめ福島県内の自治体の復興と創世のための提言が出来るシンクタンクとして、本研究所を設立した。その運営に関して必要な事項をここに定める。

### 第2条 組織と構成員

1. 本研究所は福島県いわき市に設置する。
2. 本研究所は研究所長、副所長、幹事研究員、本学教員そして外部の研究員をもって構成する。
3. 2以外にも研究教員（客員教授等）特別研究員、協力研究員、名誉研究員を学校法人昌平齋理事長により、指名することが出来る。
4. 本研究所には支援組織として後援会を設置する。
  - イ) 後援会には協賛会員、特別会員などを設置する。尚、賛助会員からは会費を徴収する。会費は別途提示するものとする。
  - ロ) 地方自治体が研究調査に参画する場合は各自治体の参画方法により補助金、研究協力金等別途協議を行う。

### 第3条 事業内容

1. 地方自治体の創世ニーズ情報収集。
2. 国や自治体が募集する地方振興策の策定。
3. 1, 2の人材育成のための教育現場へのフィードバック。
4. 1, 2の人材育成の為、ボランティアにて学生の調査参加を促す。
5. 地域の特性や共通性を情報交換し、新しい地域振興の提案の作成。
6. 国際協力及び連携のための情報収集を行い、その情報を生かして地方自治体の創世事業に参画する。
7. 研究所の調査・研究の成果を大学内外にて展示、発表等の広報活動を行う。

### 第4条 会議

1. 学校法人昌平齋理事長はその発議により、研究所の総会・発表会を行うことが出来る。
2. 研究所長、副所長、幹事研究員は研究会や会議をおこし、研究所長が議長進行役を務める。
3. 研究員は各々の専門に従い、WG（ワーキンググループ）を作り、独自に研究調査を行い定期的に成果を公開発表する。
4. 運営の根幹となる議案については、所長、副所長、幹事研究員が会議を行い、決議したことを文書にて学校法人昌平齋理事長に報告し、決議を仰ぐ。
5. 研究所としての議決を必要とする事項は所長、副所長、幹事研究員の会議で起案し、過半数をもって議決とする。

### 第5条 その他

1. 予算決算を含む事項は学校夫人昌平費理事長の承認を必要とする。
2. 本研究所の事務は事務局が行う。



## 地域振興学会会則

### (名称)

1. 本学会は「東日本国際大学地域振興学会」(East Japan International University Society of Local Developing) (以下本学会と称す)

### (趣旨)

2. 2014年9月に発足した東日本国際大学(以下、本学と称する)内の地域振興戦略研究所(以下、本研究所と称する)の事業を学術的、科学的に裏付けするために、本学の本研究所に付属して本学会を設置するものである。

今、日本は少子高齢化の波が激しく、地方を弱体化し、地方消失なる出版物も刊行され、今にも地方は生存すら危ぶまれているような感がある。しかし、実態はどうか。イメージや数値だけで語っていいのであろうか。日本再生は地方の活性化以外にないとの考えから、まず、地方の実態を調査し、分析し、且つ解決法を考え各方面に提案を発信していくための組織とすることが目的である。そして学術的研究、科学的調査を行いその成果を研究会や出版物で発表するための組織としても活動していきたいと、ここに本学会を設立したのである。

本学会は本学、本研究所と一体となって調査・研究・考察・発表・展示を行っていき地方創世の道を拓こうとする所存である。

### (目的及び事業)

3. 本学会は福島県いわき市とその周辺地域の活性化を目指すために総合的調査・研究を行い、各方面へ提言などの発表を行っていくことを目的とする。

4. 本学会は上記の目的達成のために以下の事業を行う。

- ① 学術大会及び研究発表会、学術講演会、研究会、ワークショップ等を行う。
- ② 紀要「地域振興」を発行する。
- ③ 調査・研究の成果を発表するための出版物の発行等を行う。
- ④ 調査・研究の成果を提言書として発行し関係各位に配布する。
- ⑤ その他、本学会の目的達成のため必要な事業を行う。

### (会員)

5. 本学会の会員は正会員、賛助会員、顧問によって構成される。尚、入会者に関しては、事前に資格審査会によって審査を行うものとする。基本的な入会資格は下記の通りとする。

- ① 地域振興に関心を持ち、調査・研究を志す者。
- ② 正会員及び顧問は会費無料、賛助会員は賛助会費を納めた者(賛助会費は付則13を参照)

6. 本学会の名誉を著しく傷つけたりするなどの行為を行った正会員及び賛助会員は、懲罰委員会の審議を

経た後に、除籍処分とする。

#### (役員)

7. 本学会には、会長、副会長、理事、監査の役職を置く。尚、各役職の定員は、会長1名、副会長1名、理事5名以内とする。

8. 本学会の役員の責務は下記の通りとする。

- ① 会長は本学会を代表し運営管理を行う。
- ② 副会長は会長を補佐し本学会の運営がスムーズに行われるようにする。
- ③ 理事は会長、副会長を補佐し本学会の運営に携わる。
- ④ 理事は広報、事業、紀要発行、大会運営などの仕事を分担する。
- ⑤ 大会の運営は副会長が行なう。
- ⑥ 監事は年1回の会計を監査する。
- ⑦ 理事会は年1回開き、本年度予算と前年度決算及び必要な議案を議論し採決する。
- ⑧ 但し会長が必要としたならば、臨時理事会を開くことが出来る。
- ⑨ 役職者の任期は5か年とし、再任を妨げない。
- ⑩ 理事は別に定める選挙管理委員会に従って本学会正会員の互選によって選出する。
- ⑪ 会長は理事の互選により、選出する。
- ⑫ 副会長及び監事は、会長が任命し、理事会が承認する。

#### (会議)

10. 総会

- ① 副会長は毎年1回会長の合意の上で総会を招集しその議長を務める。
- ② 総会の議決は出席正会員の過半数により可否同数の場合は会長の決定に委ねる。
- ③ 理事会の議決は出席した会長、副会長、理事の過半数をもって決する。可否同数の場合は会長の裁決に委ねる。

#### (表彰)

11. 1年間に著しい成果をあげた若手研究者(50歳以下)を顕彰する。

#### (付則)

12. 発足時の役職者は発起人が決め、任期は5か年とする。本規則は2015年4月1日をもって発効する。

#### (会費)

13. 正会員の会費は無料とする。
14. 賛助会員は1口10万円とする。

2015年4月

## 紀要『地域振興』投稿規定

1. 投稿者は本学会会員に限る。但し、本学会員が主たる共同執筆及び編集委員会から依頼した場合はその限りではない。
2. 投稿論文、研究ノート、フィールドノート、エッセイは未発表のものに限る。
3. 投稿の申込みは毎年6月末日までに投稿申込みをし、原稿〆切を8月末日とする。
4. 投稿原稿は論文、研究ノート、調査報告、資料紹介、書評、講演録、エッセイ等に区分する。
5. 論文に限り査読を行う。査読の結果、原稿の修正、再提出を求めることがある。
6. 投稿原稿は別に定める執筆要項に従うものとする。

### <東日本国際大学地域振興学会 紀要執筆要項>

1. 投稿原稿は和英文により、横書きA4にタイプする。和文原稿は横40字、縦40字、英文原稿は上下30mmの余白を取り、10ポイント（半角76字）25行とする。
2. 原稿枚数は、和文3万2000字（A4 20枚）を限度として、図表、注、参考資料集もこの中に入れる。英文はA4 25枚が目安。
3. 和文は外来語、国名、地名、人名等はカタカナ表記とする。必要に応じて原語を（ ）内に示す。
4. 数字は漢字表記にしなければならないものを除き、算用数字とする。
5. 節の構成は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ・・・とし、項や節は1、2、3・・・とする。
6. 図表は別紙に書き、本文中に朱書きで挿入箇所を明記し、番号をふり、標題、出典を明記する。
7. 注記、引用文献、参考資料リストは一括して末尾に記す。
8. 注記や引用文献等の著者名はファーストネーム、ファミリーネームの順に記す。
9. 引用文献は、著者名、書名、出版社名、刊行年、引用ページの順とする。雑誌の場合は、巻号を必ず入れる。
10. 投稿原稿には、タイトルを付ける。
11. 論文、研究ノートには和文要旨（400～600字）及び、英文アブストラクト（半角76字、10行）を付ける。
12. 全ての著作物の著作権は本学会のものとし、著作者が使用する場合はその限りではない。
13. 提出要項
  - ①原稿データファイル（wordファイル、または、テキストファイル）
  - ②図版、写真、表（図版扱い）などスキャニングしてjpg画像にしたもの
  - ③表（excelデータ）はファイルで
  - ④レイアウト見本（本文中に図版、表などが入り組む場合）
  - ⑤1ページサイズは縦197mm×横134mm（キャプション領域含む）  
自分でキャプションを図版に入れ込む場合は、ポイントサイズに注意。
  - ⑥原稿の枚数は400字詰換算で以下のようにする。  
論文、研究ノート、報告、学会動向 : 40枚以内  
資料紹介 : 30枚以内

書評 : 20 枚以内

短報 : 10 枚以内

原稿提出の際は 400 字詰換算で明記する。

- ⑦上の制限枚数の中には注及び参考文献を含める。
- ⑧図版は制限枚数には含めない。
- ⑨図版類には表題、通し番号を付し、出典のある場合は必ずその旨を明記する。
- ⑩投稿時には打ち出し原稿 1 部とデータを焼いた CD1 部を提出する。
- ⑪論文、研究ノート、報告には英文アブストラクト（300 語以内、英文題名を添える）も提出する。

<注>以下の情報を原稿に添付する。

1 - 1. 原稿の和文タイトル

1 - 2. 名前（日本語）

1 - 3. 肩書き（日本語）

2 - 1. 原稿の英文タイトル

2 - 2. 名前（アルファベット）

2 - 3. 肩書き（英語表記）

3. 論文、研究ノートなどの場合は英文アブストラクトを必ず付ける。その際にはネイティブチェックを事前に受けたものを提出する。

4. 連絡先、メールアドレス

\*原則として、初校、再校をお願いするが、誤字、脱字等での修正のみで、大幅な加筆、訂正、修正等は認めない。完全原稿でお願いする。

2015 年 4 月

## 現在までに行われた研究会等の活動

### ①キックオフ研究会

開催日時 2014年7月30日(水) 13:00-17:00

場所：東日本国際大学新1号館5F会議室

#### <キックオフ研究会次第>

1. 開会の辞 13:00-13:05
2. 理事長挨拶 13:05-13:15
3. 自己紹介 13:15-14:30
4. 研究発表 14:30-16:30
5. 今後の展望 16:30-17:00

テーマ：「福島及びいわきの地域振興の基本理念はどうあるべきか」

### ②第2回研究会 学外研究者集会

開催日時 2015年1月16日(金) 11:00-14:00

場所：新宿区西早稲田2-4-26 エジプト考古学ビル5F 東日本国際大学東京事務所

#### <第2回研究会次第>

1. 挨拶と趣旨説明 所長 吉村作治 11:00-11:10
2. 研究員提案 司会 吉村作治 11:10-12:30
3. 休憩(昼食) 12:30-13:00
4. 報告(いわき市の現状) 吉村作治 13:00-14:00

### ③2015年度第1回研究会

開催日時：2015年5月14日(木) 17:00～19:15

場所：新宿区西早稲田2-4-26 エジプト考古学ビル2F

講師：見城美枝子先生(青森大学 副学長・教授)

テーマ『地方における女子力について』

#### <第1回研究会次第>

1. 開会の辞 所長 吉村作治 17:00～17:01
2. ご挨拶 緑川浩司理事長 17:01～17:10
3. 講義 見城美枝子先生 17:10～18:10
4. 総括 所長 吉村作治 18:10～18:15
5. 懇親会 18:20～19:15



## 編集後記

いよいよ地域振興学会が始動しました。私の長年の夢、「日本は地域社会から」ということへの第一歩です。地域社会がしっかりできれば、その中にある企業も学校も家庭もしっかりするのです。そして、その地域社会が日本を支えることとなります。

東京とか大阪といった大都会の役割はそれなりにあると思いますが、現在の日本はそれが巨大化しすぎです。地方から集まった人材をいったん東京に集め、またその人の生まれ故郷と違う地方に投げ出す今の体制はおかしいと思うのです。生まれ故郷はとても美しくとおいしいものです。そこに一生いられば一番いいのですが、大学教育や就職で東京や大阪といった大都会に出る今の仕組みをどこかで断って、故郷に骨を埋める愛郷心で固まった人がその地域を担うべきですし、頑張ればそうなるはずですよ。

私はそれをいわき市の周辺でやってみたいと考え、この地域振興戦略研究所を創り、学会を組織しました。次は第1号、いよいよ始まりです。何が出てくるかぜひ皆さんお楽しみに。今号を読んでいただいた通り、多彩な研究員が集まってくださいました。きっと素晴らしい調査・研究ができると思います。それと近い、近い将来、学生にも参加してもらい、調査・研究・実践にも参加してもらおうつもりです。

吉村 作治  
地域振興戦略研究所所長